＜北海道熊研究会報＞　　第 6 号　　2013 年　3 月　26 日

ご意見ご連絡は下記へどうぞ
北海道熊研究会事務局　北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)
代表　門崎　允昭　e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp
事務局長　PETER NICHOLS ピーターニコルス氏
Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

[I]　熊は危険と言う、恐怖心を煽る北海道新聞の記事

下記の記事は 2013 年３月２５日の道新の記事です。ぜひお読み下さい。

39 [第1社会]

北海道新聞

2013年(平成25年)3月25日(月曜日)

クマ もうお目覚め？

上士幌、厚沢部で目撃

【上士幌】24日午後1時35分ごろ、十勝管内上士幌町糠平の国道沿いで、車を運転中の男性(42)がクマ1頭を目撃し、帯広署に通報した。

同署によると、クマは体長約2㍍。男性がクラクションを鳴らしたところ、林に引き返したという。現場はぬかびら源泉郷から三国峠方面へ約1・5㌔地点。

道内では今月16日、檜山管内厚沢部町の道道付近の畑で、体長約1・7㍍のクマ1頭がいるのを住民が目撃し、ハンターが山中で射殺している。

市民団体「ヒグマの会」会長の金川弘司北大名誉教授は「クマは通常、4月上旬まで冬眠しているはず。昨年の猛暑によるエサ不足で、冬眠せずにエサを探し回っている若いクマの可能性がある」と指摘。「空腹のクマは人を襲う可能性もある。家の外に生ごみなどを置かないように」と注意を呼びかけている。

私が問題にしたいのは、

金川弘司氏のコメント

「クマは通常、４月上旬まで冬眠しているはず。昨年の猛暑によるエサ不足で、冬眠せずにエサを探し回っている若いクマの可能性がある」と指摘。「空腹のクマは人を襲う可能性もある。家の外に生ごみなどを置かないように」と注意を呼びかけでいる。と言う点

門崎が指摘したいこと

＜金川氏のコメント①＞

「クマは通常、４月上旬まで冬眠しているはず」と言う点。

＜門崎の見解＞

北海道の羆は春分(3 月 20 日)前後になると、越冬穴から出て、山野を跋渉し始める。従って、「４月上旬まで、冬眠しているはず」と言う氏のコメントは、明らかに誤った見解である。

＜金川氏のコメント②＞

「昨年の猛暑によるエサ不足で、冬眠せずにエサを探し回っている若いクマの可能性がある」と言う点。

＜門崎の見解＞

春分(3 月 20 日)前後から、熊は越冬穴から出て徘徊を始めるのが、北海道の羆の正常な生

態(生活状態)であるから、金川氏の上記コメントは無知の空想の妄言としか言いようがない。

＜金川氏のコメント③＞

「空腹のクマは人を襲う可能性もある。家の外に生ごみなどを置かないように」と注意を呼びかけでいる。と言う点。

＜門崎の見解＞

彼のこの言葉も、「春分(3 月 20 日)前後から、熊は越冬穴から出て徘徊を始めるのが、北海道の羆の正常な生態(生活状態)である」から、想像の言葉としか言いようがないが、しかし、想像で誤った事を、羆の生態を知り尽くしたかのように、臆面もなく言う事自体、彼が北大の家畜繁殖学の教授であったと言う経歴に鑑み、私は彼の学者としての良心基本理念姿勢を疑わざる得ないし、それ以上に、彼を糾弾したいのは、彼の間違ったコメントが「多くの人に、熊に対する恐怖心を与え煽り、行政に対し、熊駆除の口実を与えること」である。

＜北海道新聞社への申し入れ＞

そこで、門崎は道新の読者コーナに電話し、その配慮で報道部の「川波シンスケ氏」に、上記の事項を指摘、話した上で、次の事を要請しました。

＜要請事項＞

「ぜひ、熊の生態について、正確な情報を啓蒙して下さい。誤った報道は、熊を恐ろしい危険な獣との印象を一般に与え、熊を駆除する原因を与える事になります。素人の間違った知見報道で、熊を犠牲にしてはいけません。良心的な報道啓蒙を期待しますと。

門崎　允昭

［II］札幌市への要望

①　熊が出没した場合、如何なる熊が何の為に出没しているのか、的確に見極め殺さない方法で対処されたい。出没する熊には必ず目的がある。

一昨年(2011 年)と昨年(2012 年)に、南区や西区の住宅地に頻繁に出て来た熊はいずれも満 2 歳未満の母から自立させられた若熊が、「住宅地が如何なる所か」好奇心で学習に出て来ていたのであった。2 歳未満の熊が、人を襲った事例は過去に無い。故に大騒ぎは慎むべきである。

②　「芸術の森の野外美術館」付近に熊が出没したとして、大騒ぎして昨年も幾度か閉園しているが、解決策として、早期に会場を有刺鉄線柵で囲う策をすべきである(国定滝野すずらん公園での事例がある)。

③　熊が住宅地や耕地に出て来た場合、一時的にその場所に電気柵を設置し、再出を予防する対策を講ずること。

④　奥山で熊の毛を取り、DNA 鑑定するなどの調査は不要で、市民にも熊にも無益な税の無駄遣いであることを、強く指摘したい。　(了)